

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

第10次連合ボランティア 報告

住田（五葉）をBCとして、大船渡のボランティア活動を行いました。大船渡は社協の組織がしっかりしており、ボランティアセンターが機能しているため、多くのボランティアを受け入れることができます。そのため、被災地の中では、復興がかなりすすんでいる地域とされています。

しかし、街の中心地は津波により壊滅的な状態となっており、いたるところで重機による瓦礫の撤去作業が行われている状況です。また、海から離れていても、風によってやってくる魚や重油を中心とする臭いを感じます。

活動内容は、側溝の泥だし、魚倉庫の後片付け、殺虫剤の散布、避難所の手伝いなど多岐にわたりましたが、どれも街の復興には必要な仕事です。側溝の泥だしでは、外国人ボランティア団と一緒に作業をする機会が数回ありました。彼らは皆、責任感が強く、作業もパワフルにこなし、見習うことも多くありました。昼食も一緒に食べ、コミュニケーションもしっかりとりました。また作業中、飲み物を差し入れていただいたり、自宅に招かれコーヒーをいただいたり、被害を受けたときの様子を聞かせていただいたりなど、地元の方々とふれあうこともできました。

さらに、私たちが教職員の団体だと知ると、この状況を子どもたちに伝えてほしいという声が多くありました。自然災害の恐ろしさや長い時間がかかるであろう復興作業を忘れないでほしいという思いが伝わってきました。

以下は、参加者からの一言です。

- ・継続は力。しかし、継続させるためには力が必要。日教組にはその力があるはず。
- ・少しは役に立ったかな。がんばったけど、まだまだやるべきことはたくさんある。早い復興を願っています。
- ・慣れない仕事で大変でしたが、得るものは大きかったです。
- ・大船渡の、本当はのどかーな海と山と空を見て、ボランティアをしました。日教組の全国の仲間が「つなぐ」気持ちに、隣県秋田としても感謝しております。
- ・地球が一度、身震いしただけでこんなことに。私たちはもっと謙虚に生きなければならないと感じました。
- ・岩手が自然の恵みをもう一度取り戻すことができるように、復興することを願います。
- ・このボランティアで見たこと、聞いたこと、感じたことをできるだけ多くの人に伝えたいと思います。
- ・大船渡のお父さんが言いました。「肝っ玉すえて頑張らねば。ハッハッハー！」その通り！！私たちが教えられました。

- ・復興に少しでも力になれたことを本当にうれしく思います。みんなで力を合わせてとりくむことの大切さを改めて感じることができました。がんばれ、岩手！
- ・千里の道も一歩から。復興への道は長く険しいかもしれませんが、何もしなければ何もすすみません。一歩ずつ、一歩ずつ、着実に支援をしていきましょう。
- ・写真を何枚も撮りましたが、自分の目を見たようには写りませんでした。この目を見たことを、体験したことを、しっかり伝えたいと思います。
- ・支援ボランティア、思いをこめてがんばりました。行動することと同じくらい、継続することが大切だと感じます。みんなでつないでいきましょう。大船渡、ともにがんばろう！
- ・私たちボランティアを含め、被災地で「何かを変えよう」としている日々の営みが復興につながることを実感しました。つどい、つながり、つくる明日！
- ・自然の猛威の前に人間のいかに無力であることか。だからこそ、力を合わせて前にすすむしかない。
- ・花咲くことは疑わず。この地での復興への歩み、ここで仲間と働いたこと、見たこと、感じたこと……。地元に戻って、きっちり若い人たちに伝えます。
- ・側溝から、海水のしみこんだ土砂を掘り出し、「希望」を入れて、溝ふたをしめました！
- ・来てみなければわからなかった事。それは“道のりは果てしない”ということ。“でも一歩一歩前へすすんでいます。”
- ・その日になって初めてわかる仕事内容。どの仕事でもみんなの協力で頑張りました。ほとんどが側溝の泥だしでしたが。
- ・一人の力でできることは限られているけど、みんなの力を合わせると、大きな事も成し遂げることができる。



【第10次 ボランティアメンバー】